

## 国語科（古典）学習指導案

日時 平成 23 年 11 月 16 日（水）第 5 校時  
対象 第 5 学年 B 組 （35 名）  
授業者 勝亦 あき子

### 1 単元名

近世小説（「調べたことを文章にまとめて報告する」）  
題材：井原西鶴作『日本永代蔵』より「世界の借家大将」  
使用教科書：東京書籍「古典」古文編

### 2 単元の目標

『日本永代蔵』『世界の借家大将』を読み、興味や関心を持った事柄について調べ文章にまとめる。

### 3 単元の評価規準

- (1) 作品の構成上の特徴を理解しつつ、井原西鶴の文学史的な位置付けを理解する。
- (2) 江戸時代の慣習や行事、文化を調べ適切にまとめて報告する。

### 4 単元の設定理由

通常は一斉授業の形態で現代語訳と文法理解を中心に読解を進めているが、授業における学習活動が読解に偏り過ぎないように単元の終わりに 4 人グループの協働学習として互いに意見文を持ち寄って交換し、その上で 300 字～ 400 字程度の考察を書く作業を設定するようにしている。予習を前提に授業に臨むよう指導しているが、全員が予習を完璧にこなして授業に臨んでいるとは言い難い実態がある。今回のテキストである西鶴作品には特有の言い回しも存在するため、今回は現代語訳と作品の内容・構成を把握するためのワークシートを配付し、生徒の読解上の負担軽減に努めた。

今回の「調べて報告する」単元は年間 2 単位という本校における科目上の時間的制約もあり、全 4 時間扱いの授業として設定し課題を授業外で課すこととした。本単元は教科書上の位置付けからすると高 3 で学習する筈のものであるが、「読みの作業を分担し、協働して読みを深める」学習形態の古典の授業が高 2 段階においても必要であろうと考え、今回高 2 を対象に実施した。

本単元を通して、生徒が授業で理解した内容をもとに、時代背景などさらに興味・関心を抱いたことについて図書館やインターネットを活用して調べ報告し、互いに情報を共有しながら最終的にレポートにまとめていくことで、作品理解をさらに深める探究型の学びを目指した。

### 5 単元指導計画（4時間扱い）

第 1 時：ジャンル・作者・成立年代について説明し、現代語訳を用いながら全文通読し内容を把握。

第 2 時：ワークシートへの記入により内容を構造的に把握し、作品冒頭の技巧に気づく。

江戸時代の貨幣制度や年中行事服装や髪型などについて調べる（課題 I）。

本校司書に協力を依頼して、期間限定で参考図書コーナーを設置してもらった。  
また関連するブックリストを作成してもらい、資料として生徒に配付した。

第 3 時：課題 I の報告や情報交換を通じ、作品の理解をより深める（※本時）。

第 4 時：課題 II の報告や情報交換を通じ、自分が読みとったことを共有する。



※授業外で生徒に課した課題Ⅰ・Ⅱの内容は以下の通り。

<p><b>課題Ⅰ</b> 4人グループで(1)～(10)の中から二つの課題を選択し、調べたことをまとめる。 一つの課題につきA4の紙一枚、合計二枚にまとめる</p> <p>(1)江戸時代における塩や酒、綿の生産について (2)江戸時代における年末年始のしきたりについて (3)江戸時代の食文化について (4)江戸時代の服装・髪型について (5)江戸時代の貨幣制度について (6)江戸時代の庶民の子育てや教育について (7)当時のその他の事柄、または当時の時代背景について (8)作者(井原西鶴)について (9)文中に見られるその他の特徴的な語句について (10)文中に見られる格言(のような文)について</p>
<p><b>課題Ⅱ</b> A～Dについて4人グループ内で分担を決めて書く(1000字、またはA4 1枚程度)。</p> <p>A 主人公(藤市)の人物造型について B この話の構成上の特色について C この話と自分(及び現代社会)との関連について D その他(自分で設定)、またはこの話の印象的な(重要な)部分について</p>

## 6 本時(全4時間中の第3時間目)

### (1) 本時のねらい

- ・作品中の「格言」に注目して読む。
- ・課題Ⅰについてグループで調べた内容を適切に報告する。

### (2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点、配慮事項	評価規準
導入 5分	挨拶 前時をふりかえり本時の内容を確認する。	配付済みのプリントを今回も使うことを伝える。	・授業に意欲的に参加しようとしているか(観察)
展開 5分	構成表を見直し、場所・登場人物・概要を再確認。	以下の2点を強調 ・話の舞台が京都であること ・藤市が実在の人物であること	・作品の概要を思い出せたか(発問)
10分	教師範読 本文中の「格言」めいた表現に注目する。	時間短縮のため指名音読しない ここで確認した西鶴の評価や「格言」を課題(Ⅱ)にある程度生かすよう伝える。	・段落の終わりにある「格言」に注目し線など引いているか(観察)
30分	課題(Ⅰ)についてグループ毎に発表  5分程度の準備(調整)時間を設け、グループで話す内容を確認後開始。	評価の観点がある3点であることを先に伝える。  よい発表ができなくてもあまり批判しないよう気をつける。  WEB上の情報源を明らかに説明できない場合には注意する。	[発表の評価規準] ・参考資料の妥当性 ・発表のわかりやすさ ・作品との関連性
まとめ 5分	発表終了後、課題(Ⅰ)のレポートを提出。 次時に向けて、課題(Ⅱ)の内容と分担を確認 挨拶	レポートになっていない場合には後日提出するよう伝える。	・レポートの期日や書式を把握しているか(観察)